

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【区分①：自立支援、介護予防、重度化防止】

| | | | |
|------|------|----------|--------------|
| 市町村名 | 水上村 | 所属名 | 保健福祉課 |
| 担当者名 | 米来 早 | 連絡先（TEL） | 0966-44-0313 |

| 市町村名 | 項目名 | 取組テーマ (リストから選択) | 第8期目標 | | | | R5年度(2023年度)実績 | | | | |
|------|-----------------|---|---|---|----|---|--|-------------|---|---|--|
| | | | 目標設定時点における現状と課題 | 具体的な取組 | 目標 | 計画記載ページ | 実施内容 | 目標達成状況・自己評価 | 達成度合 | 課題 (目標の達成状況に関する理由や原因等) | 課題に対する改善策 (R6年度(2024年度)以降) |
| 水上村 | 健康寿命の延伸と介護予防の推進 | 1 生涯現役社会の実現と自立支援の推進(就労、いきがい、地域活動、健康づくり、自立支援ケアマネジメント、介護予防、見守り) | ニーズ調査(令和2年度調査)においては、地域活動への参加状況は約23%であり、通いの場については30.8%であった。高齢者の社会参加活動は、生きがいのみならず、閉じこもり防止、身体機能の向上、地域資源につながるなど多様な意義があるため、啓発活動はより地域活動への参加率を今以上にアップさせるための取り組みが必要である。 | 「住民主体の通いの場づくり」の本格展開を図ることを目的として、令和元年度から福祉・介護分野の地域おこし協力隊の活用、高齢者いきがい体力アップ促進事業、熊本保健科学大学との包括連携協定による通いの場の拡充に努める。 【目標値】 令和5年度 277人 | 46 | 令和5年度は15地区12か所にて通いの場を実施、また地域おこし協力隊による通いの場のサポート、いきがい体力アップ促進事業、熊本保健科学大学との包括連携協定による通いの場の拡充に努める。 【目標値】 令和5年度 277人 | ○令和5年度通いの場参加者数: 190人 ○令和6年3月末65歳以上人口数: 889人 ○令和5年度通いの場参加率: 21.9% ○第5期計画での令和5年度目標達成率は271人であったが、令和5年度は目標を下回る結果となったが、令和6年度も3割を下回る結果となった。 | △ | 通いの場当初から参加されている方は引き続き参加されている方が多いが、新規参加される方が少ない。特に男性の参加者が少なく、この課題はどの地区においても共通している。また、近年は就労年齢も上がり伸びていることもあり、60歳代～70歳代前半で参加率が特に少なく、通いの場に手となる人材が少なくなっている。 今後も年齢層に通いの場を実施していき地元に補助金を交付し、通いの場の充実を図る。 | 令和6年度も前年度に引き続き地域おこし協力隊による通いの場のサポート、いきがい体力アップ促進事業、熊本保健科学大学との包括連携協定による通いの場の体力測定・認知機能検査を実施。また、現在百農体操の水上村独自も共通している。また、近年は就労年齢も上がり伸びていることもあり、60歳代～70歳代前半で参加率が特に少なく、通いの場に手となる人材が少なくなっている。 今後も年齢層に通いの場を実施していき地元に補助金を交付し、通いの場の充実を図る。 | 現在の百農体操(熊本県バーチョン)もマネージャーについてあるが実際に通いの場を行った際は聞くことがあるため、新規参入される方へアピールする。 現在百農体操の水上村独自のマネージャーの作品を採用していただきたい。 また、百農体操の参加率が増えている。今年度から通いの場を実施していき地元に補助金を交付し、通いの場の充実を図る。 |
| 水上村 | 健康寿命の延伸と介護予防の推進 | 1 生涯現役社会の実現と自立支援の推進(就労、いきがい、地域活動、健康づくり、自立支援ケアマネジメント、介護予防、見守り) | 2025年までに地域包括ケアシステムの構築が明瞭の課題とされている。リハビリテーション専門職が関わることで、様々な介護予防事業や地域ケア会議での実践・充実を図り、効果的な地域展開を行なう必要がある。 | リハビリテーション専門職が地域ケア会議等に参加し、専門的なアドバイスをケアプランに反映することにより、自立に向けた支援ができるようサポートする。また地域における介護予防の取り組みを機能強化するために、運動教室、通いの場などリハビリテーション専門職等の関与を、地域包括支援センターと連携して促進する。 | 47 | 【リハビリテーション専門職との連携強化】 地域ケア会議、運動教室等への専門職等の開催回数を増やすこと、地域における介護予防の取り組みを機能強化するために、運動教室、通いの場などリハビリテーション専門職等の関与を、地域包括支援センターと連携して促進する。 【目標値】 令和5年度 25回 | 令和5年度は高齢者の保健事業と介護予防の一貫的実施事業にて、ボビュレーション専門職の参加依頼を引き続き実施。住宅改修環境調整支援や福祉用具貸与に対するアドバイスも実施する予定としている。ただ令和5年7月から包括支援センターに配置されていりリハビリテーション専門職の不在となつていただけたため、開催回数の減少が懸念される。 | ◎ | 高齢者の保健事業と介護予防の一貫的実施事業により講話や開催回数を増やすことと共に、当初目標より開催回数が一気に増えた。ただし、令和5年7月まで包括支援センター内にリハビリテーション専門職の配置があつたため、個別の運動指導などを頻回に行なうことができたこともあり、開催回数が大幅に増加した。 | 令和6年度も高齢者の保健事業と介護予防の一貫的実施事業による講話を実施。また地域ケア会議においてもリハビリテーション専門職の参加依頼を引き続き実施。住宅改修環境調整支援や福祉用具貸与に対するアドバイスも実施する予定としている。ただ令和5年7月から包括支援センターに配置されていりリハビリテーション専門職の不在となつていただけたため、開催回数の減少が懸念される。 | 他市町村でリハビリテーション専門職がどのような活動に参加されているか教えていただきたい。 |